

〔普及の現場から〕

新庄村和牛子宝づくり事業について

真庭農業普及指導センター

1 肉牛繁殖農家の悩みって何？

管内の大規模農家を中心にアンケートをしたところ、牛飼いの悩みのトップは「子牛の発育・病気」、二番目が「繁殖がうまくいかない」でした（表1）。でも、この結果を見せると、「子牛の飼育技術が良くなっても、子牛が生まれないとお話にならない。やっぱり一番は繁殖でしょう」という答えが殆どの農家から返ってきました。

表1 真庭地域の牛飼いの悩み

繁殖がうまくいかない	子牛の発育・病気	牛舎構造が悪い	敷料が欲しい	牛糞処理に困っている	自給飼料の悩み	その他
22%	24%	13%	9%	7%	7%	18%

2 取り組みの契機

新庄村肉畜共励組合（14戸、繁殖牛150頭）の福井幸平組合長も、以前から繁殖の重要性を強く感じており、村を挙げての繁殖改善に取り組みたい意欲を持っていました。関係機関の支援を受けながら、昨年10月にその思いを具体化し、「新庄村和牛子宝づくり事業」をスタートさせました。

3 新庄村和牛子宝づくり事業の概要

（1）目標

新庄村で飼育している繁殖牛頭数と同数の子牛を毎年生産することです。

（2）内容

①繁殖に関する知識・技術の研修会（年2回）
すでに1回目を12月に開催し、真庭家畜保健所職員を講師に繁殖の基本を学ぶとともに、繁殖成績優良農家から具体的な技術のツボについて発表しました。

②子宝ネットワークの設立

真庭地域ではラウンダー（写真1）で長期未受胎牛を歩かせることで、受胎させる実例を数多く積み重ねてきました。

子宝ネットワークとは、この実績をもとに、既

にラウンダーを設置している農家の中から子宝センター農家を選定し、長期未受胎牛のいる農家が、その牛を子宝センター農家に受胎するまで預けるというものです。

このとき、子宝センター農家は自分の飼育牛を委託農家に逆に預託し、通常発生する飼育管理費用については双方で相殺したものとするユニークな方法です。

（3）繁殖成績向上のための調査、実証

ラウンダーの効果の実態調査や、分娩前後のバイパスコリン（リーシュアバイパスコリン）投与による繁殖改善効果についても実証を始めました。

（4）全牛の繁殖・診療情報の一元管理

普及指導センターの協力を得て、村内全牛の分娩、授精、受胎、診療情報を管理し、定期的に組合員、関係者に提供しています。

4 新庄村和牛子宝づくり応援協議会の設立

子宝づくり事業開始と同時に、新庄村が中心となり、JAまにわ、真庭家畜衛生保健所、共済連、真庭支局畜産班、普及指導センターによる支援組織を立ち上げました。定期繁殖健診（写真2）を中心に事業の推進を支援しています。



写真1
ラウンダー



写真2
繁殖・診療
情報をもとに
定期繁殖健診